

## 令和7年度つながる鎌倉エール事業について

### ■NPO センターの新機能「市民活動コーディネーター」の紹介

- 令和7年度からの第6期指定管理期間について、エール事業を含む市民活動に関する発展的相談対応や協働のマッチングの促進を図ることを目的として、新たに予算措置をしたうえで専門のコーディネーターを配置。
- 候補者（運営会議）が申請時に、“コーディネーターを含む、様々な主体による知識や経験によって活動をサポートする「協働推進室」の立ち上げ”を提案。
- 地域のつながり課としては、エール事業においてこのコーディネーターを積極的に活用し、提案内容やプレゼン等において質の向上を目指したい。

### ■6年度エール事業の審査選考会における総評（一部抜粋）

#### ◇スタートアップコース

- 企画書作成の際の注意点を事前に応募者になんらかの形で伝えられる工夫をされるとよいのでは（説明会等で昨年度指摘のあった事項を紹介するなど）
- エール事業のうち、スタートアップコース及び地域活性化コースは団体が単独で取り組む事業として、センターへの事前相談を必須にしていないが、これを継続する方向性でよいのかについて、事務局は検討してほしい。

#### ◇地域活性化コース

- 提案書の記載項目を現在より細分化するなど、地域活性化の視点を団体自身が認識・確認できるような様式にすることが望ましいのではないかな。
- 地域活性化コースの趣旨である「地域のつながり」をどう実現するかを企画に盛り込んでもらいたい。コースの趣旨を理解して応募してもらえるよう、申請前に周知する方法を検討する必要があるのではないかな。

#### ◇協働コース

- 協働コースは、手引きに基づいた選考基準と評価項目によって採点するが、期間が3年になったことで、応募団体が若い団体の場合には、団体の成長や、期待を込めた評価を含めてもよいのかどうか、委員側の視点の統一（エール事業の名のもと、協働事業に何を求めるか）が必要ではないかな。
- 応募方法による工夫を凝らすことで改善できる可能性があるのではないかな。例えば、申請書は、団体に意識してほしいことを記載させる内容（エール事業として求めること）となるように工夫したほうがよく、たとえ審査選考に落選したとしても、団体としての将来のビジョンが明確となり、エール事業に挑戦したことで新たな気づきや発見が得られることで、結果として団体の成長につながるように、委員も事務局とともに検討したいところである。

## ■令和7年度エール事業に向けた検討について

### ◇委員会にてご議論いただきたい内容

#### ①NPO センターへの事前相談について

現在は協働コースのみ必須としているが、他2コースについても同様とするか  
→（案）全コースにおいてセンターへの事前相談を必須とし、団体の事業内容から適切なコースを紹介出来るようにする。

#### ②提案書の記載項目について

各コースの視点を団体自身が認識・確認できるような様式にするため、項目を細分化するか（申請の過程で団体としての将来ビジョンが明確となるような項目を盛り込むことを含む）

→（案）申請書様式の一部を修正。

※委員会当日に案をお示しします。

#### ③コースの趣旨等の周知方法について

企画書作成時の注意点や各コースの趣旨等について十分理解した上で申請できるような事前周知方法を検討

→（案）前年度までの主な指摘事項をエール事業 HP の QA で紹介する。